



岡山作文の会会長賞

のれた

真庭市立余野小学校

一年生 中山 晴貴

えっ、なんじゃこれ。六年生の しょうたくんたちが なにかにのっている。じてん車じゃあ ないぞ、三りん車じゃ ないぞ、あれはなんだと おもった。タイヤが 一こで、どうやって のっているんだ。

それは 一りん車だった。よの小は、うんどうかいで 一りん車がある。一年生の ぼくと そうちゃんは、お花の アーチを もって、その下を 一りん車が すいすいとおっていく。かっこいいな、やりたいなと おもった。

うんどうかいが おわっても、ぜん校の みんなが 一りん車の れんしゅうを している。ぼくも やらないと いけない。一年生のうちに のりたいなとおもった。

二年生の みなとくんが、手すりを もって ぐるぐるして いる。ぼくも そうちゃんと する。だけど なかなか すすまない。手を

はなしてみたら タイヤが うしろに いった こける。なんでだ。二年生の ひなたさんを かんさつした。わかった、すらすらいくためには、手を はなすんじゃなくて、こぐ れんしゅうを すればいいんだ。まえかがみに なって ちよっと 手を はなした しゅんかん、はやく 足を こぐ。うわあ、ちよっと こげるようになった。すすめるようになった。ぐるぐるしたら できるようになった。もっとぐるぐるしよう。

「いっしょに いく?」

と、しょうたくんが いう。大きい子と 手を つないだら、みんなすらすら いている。だから ぼくも ちようせん。左手は しょうたくん、右手は はやくんと 手を つないで スタートした。いきなり、ぐんぐんすいすい こげた。手を つないだら いけるんだ。バランスが わかった。気もちいい。

「はるくん、すごいが。」

と、先生が いう。

「一、二えいっ。」

「一、二えいっ。」

「よし、一、二、三を めざして いくぞ。エイ エイ、オー。」

一、二、三、四、五を めざそう。五まで こげた。バラ

ンスが よくなって きた。つぎは ちようれいまで いくぞ！
日ようび、おとうさんと れんしゆうを した。ぼくが のって
みせると、

「すごいなあ。」

と、びっくりして いた。ぼくは おかあさんに、

「ちようれいまで いけるように なったよ。」

「ちゆうのり できるように なったよ。」

と、まい日 ほうこくして いる。おかあさんは、

「じょうずに なったね。」

と うれしそうだ。

ふゆ休みも 学校に きて がんばるよ。あきらめずに つづけて、

どんだん いけるように なる。サッカーゴールまで いけるように

になりたい。おとうさんに ちゆうのりも 見せてあげたいな。